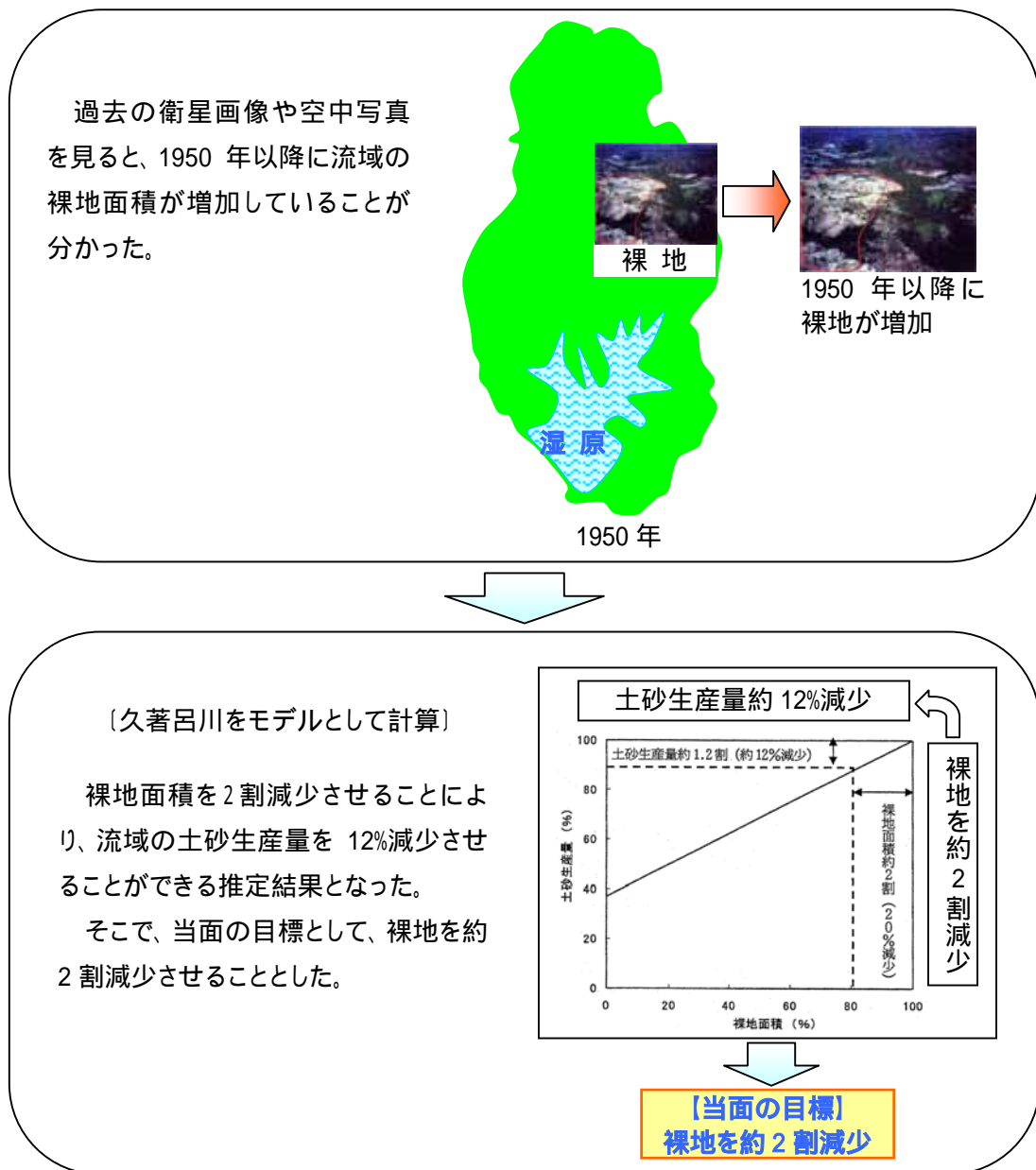


2. 植林などによる保水、土砂流入防止機能の向上

流域の保水能力と土砂流入防止機能の向上のため、湿原周辺の遊休地や流域の荒地などへの植林を推進すべきである。

施策の背景

- 1) 流域全体の裸地や荒地のうち、当面の目標として約2割減少させるものとし、その効果を検証する。



- 2) やむを得ず発生する裸地については、土砂流出防止対策を講ずるよう規制・指導するものとする。

裸地や荒地は無い方が望ましいが、現実問題として、様々な事情により発生、あるいは、残ってしまう裸地もあると考えた。

そのことを踏まえ、釧路湿原の保全に対するの初期の基本姿勢を示した。

達古武地域における保全・再生の優先対象地

